

目に余る 高塩助役の異常

ブロック図 差替えの話しを 私語 と

N 2 7

2 0 1 0 . 5 . 2 6

J R 東海 労 東 二 運 分 会

全ての乗務員のみなさん こんなことがありました

過日、予備の運転士が学習室でブロック図の差替え・訂正をしていたところ、不明な点があったため近くにいた別の運転士に声をかけました。そこに、すかさず？ 高塩指導助役が入ってきて「私語はダメです」と一方的に告げ、運転士が「ブロック図 差替えの話しをしていた。私語ではない」と説明しても聞く耳を持たない異常さで、ダメ押しは、「さっきの私語は、乗務報告書に書くように」でした。

全ての乗務員のみなさん どう思いますか？

「ブロック図 差替えの話し」が「私語」と言えるのでしょうか。ともあれ高塩助役が「私語」と判断したのだからやむを得ませんが、100歩譲って「私語」だとしても、かなり異常だと思いませんか。

これでは、学習室に入ったら一言も声を発してはならないことになります。予備の時間＝勤務時間中は一切の私語を慎むように、というのが高塩助役＝指導科長＝運輸所所長の考えだとしたら大変な間違いです。まさに人権を無視した行為です。

予備の時間中はパイプ椅子に座り、じっと壁に向かって一言も発するな、ということがどれほど犯罪的なことなのか、という認識が全くないのでしょう。また、例えば高塩助役は勤務時間中に「今度、一緒に走るぞ」などと言ったのを覚えていないのだろうか。これは、どう見ても断じて業務上必要な言葉だとは思えませんが、それとも乗務員はダメで、管理者なら私語でも何でもあり、でしょうか。

これは、「見せしめ日勤」をはるかに越えた、「口封じの監禁予備」でしかありません。まして、乗務報告書に「ブロック図 差替えの話しをしていたら、私語はダメ、と注意されました」と書け、など言いがかりと脅しそのものです。必要なら勝手に、高塩助役が「〇〇運転士の私語を現認し、注意指導しました」と指導科長に、その大いなる優秀さを自慢して、報告すればそれですむ話しです。それは私たちの知るところではありません。どうぞ、ご自由におやり下さい。

「信ずれば 世の常識も 非常識」

C D 頑 爺